全姉連会報17
ZEN-ANE-REN PRESENTS ELDER SISTER ONLY MAGAZINE

全姉連会報 第１７号

表紙イラスト：田ロケンジ様

WEB コミックサイト「クラブサンデー」で、姉萌え異能者サスペンス漫画『DCD』を連載し、姉萌えを自認される姉マンガ家・田ロケンジ先生に表紙を描いていただきました。

お忙しい中、本当にありがとうございました！

こんにちは。駆け出しの姉マンガ家、田口ケンジです。今回の全姉連会報
17 号の表紙を描かせて頂きました。
選んだ題材は、『ToHeart2』からみんな大好きタマ姉です。
淫靡な視線で見下ろしてくるお姉さん……たまりません。ちなみに
タイトルロゴは本家『ToHeart2』をオマージュしたものです。
私事ですが、現在とある姉作品プロジェクトが水面下で進行中……
形になった際は応援して頂けるとありがたいです。それでは～。

『めばえ』（たぬきそふと）

横暴で偉そうで、弟思いで優しい姉。「めばえ」の時期を迎えた弟が姉に抱く素直な思い。

『姉にこの夏』（CLOCKUP）

海の家を舞台に繰り広げる姉4人と騒がしくて楽しい日々。夏の海辺で開放的な姉ライフ！

『ヘタレ姉。』（春夏アキト）

ちっちゃい姉と大きい弟との凸凹姉弟4コマ、ついに商業誌進出＋単行本発売！

『まほねーず☆とらいあんぐる』（佐々宮ちるだ）

（姉＋魔法少女）×3＝まほねーず！ お姉ちゃん達、寂しかった君の元に参上しました！

『ウチの姉が○○すぎて困っている件』
（著：みかづき紅月 イラスト：鷹乃ゆき）

構って構って！ と弟にまとわりつくお姉ちゃんは、とってもウザくて、可愛くて。

『あねざかり』（藤凪かおる）

うちの姉さん、昼と夜では別の顔……？ 姉は今日も「夜の仕事」で頑張ります！

『お姉ちゃんが来た』（安西理晃）

父の再婚でできた義理の姉は少し変？ 大好きな弟くんを今日も陰からつきまといます！

『ふぇちっくす!』（幾夜大黒堂）

数年ぶりに再会した最愛の弟は、なんと女の子よりも可愛い男の娘だった！

『姉恋』（柚木 N’）

3人の姉に囲まれる「姉恋」をはじめ、柚木N’先生の新刊は今回も姉満載。

『おおかみこどもの雨と雪』（細田守）

半分おおかみ半分人間の姉と弟。その子育てと成長を綴る感動作。

全姉連のレビューは「姉萌え」至上主義。評価基準は、「姉萌えか否か」。

本文中で引用した画像、文章の著作権は、すべて各メーカー様、著者様にあります。

めばえ

メーカー	たぬきそふと
ジャンル	ADV
発売日	2011 年 12 月 16 日

主人公『佐倉柚樹』は、最近進学したばかりの新入生。学園生活は新しい＆楽しいことばかり。

実姉『佐倉杏奈』の謎のイジメに耐えながらも、毎日の生活をエンジョイしていた。

そんな主人公の一日の最後の楽しみといえば、最近覚えたばかりのオナニー。最初は、チ〇チンこすればなんか気持ちいい……程度だったが、それが言わば『疑似セックス』だと分かってからは、ネットから拾ってきたオカズや学園の女子とのセックスを思い浮かべては、毎日のようにオナニーをしていた。

そんなある日、些細なことがきっかけで、クラスメイトの美少女『葉月莉子』と二人っきりで遊ぶようになる。男子と女子が二人っきり＝男女交際、つまりセックス！でも、もちろん彼女とはカレカノでもなんでもなくて…。「セックス……したいなぁ」

今日もセックスできる日を夢見て、せっせとオナニーをするのだった。

■お姉ちゃんも女の子、だよ？

思春期まっただ中の主人公が性に目覚め、異性への好奇心が日々高まり、人間として第２の「めばえ」の時期を迎える。その時、彼の興味の的となったのは、クラスで人気のある同級生・莉子、そして……実姉の杏奈お姉ちゃんだった、というお話。

思春期の男子なら皆経験する、女の子の秘密を知りたくてたまらない時期、手を伸ばせば届く距離にいる姉に興味が湧くのはごく自然なこと。女なら誰でもいいんじゃない。優しかったり、うるさかったりする姉の、女の子の部分を知りたい……！

そんな弟の葛藤を赤裸々に描いた姉ゲーです！

■姉ちゃんは横暴だけど優しくて

性のめばえを迎えた姉弟の姿を描く本作。

杏奈お姉ちゃんは、大きく前半後半に分けると、「弟に理不尽と無茶を強いる横暴姉貴」から「弟の愛しさに気付いてしまった恋するお姉ちゃん」へと変化する姿が見られます。

これがどちらもすごくイイ！

後半でブラコン可愛くなるお姉ちゃんの姿はもちろん、前半のわがまま姉貴っぷりもリアルで素敵。

いや、姉を持ったことがないのでリアルがどんなのか知らないのですが、自分勝手で小うるさい姉ってこんななんだろうなぁ、それをうざがる弟もこんななんだろうなぁ、というイメージそのまま。

「それと、今度からはノックくらいちゃんとしろよな。姉ちゃんだってノックもなしに部屋に入ってこられたら嫌だろ？」
「そんなことあんたがしたら、ぶん殴るわよ？」
「だ、だから姉ちゃんも気をつけてっていう――」
「私はいいのよ。**私はお姉ちゃんで、あんたは弟なんだから**」

出た！　必殺「私はお姉ちゃんだからい

いの」理論。哀れな弟には反論する余地の与えられない、宇宙の真理のごとき理論。

杏奈お姉ちゃんは、この「私はお姉ちゃんだからいいの」のセリフが大変お似合いの姉。筆者の自説「姉は姉ゆえに偉い」とも合致する、強力な姉貴型なのです。

他にも、弟がいたずらしたり、悪いことをしたりすると「こぉら〜、柚樹！」とげんこつを飛ばし、朝はまだ早い時間から足でぐりぐり踏みつけられて起こされる、弟にとっては目の上のたんこぶ。

こう書くと、リアルで姉に悩まされてきたある意味ぜいたくな弟読者や、やっぱり姉には優しくされたい弟読者には、ちょっと勘弁してほしい……かも知れませんが、実はそうでもありません。

杏奈お姉ちゃん、うるさくてどうしようもない姉ではなく、きちんと家事をこなし、面倒見の良い姉として描かれているんです。

不在がちの両親に代わって食事を作ってくれるし、姉から「おいしい？」と聞かれて「うん」と答えれば、「そう、よかった」と目を細めてくれる姉。

弟のネクタイが曲がっていればパパッと結び直してくれて、その手際の良さに感心すると「あたりまえでしょ。お姉ちゃんなんだから」と自慢げに鼻を鳴らす姉。

膝をぽんぽんとたたき、ひざまくらで弟の耳かき（お姉ちゃんの趣味）をしてあげるからおいでと言いだしたのに、

「お願いします、は？」
「は？」
「お姉ちゃんが耳かきしてあげるんだから、お願いしますくらい言いなさいよ」
「俺が耳かきをお願いしたわけじゃないのに！？」
「……耳かきで、あんたの脳みそグリグリするわよ？」
「ッ！？　お、お願いします！」

と偉そうにして、「もう、ちゃんと耳かきするようにしなさいよ」と文句を言いながらも楽しそうな姉。

こんな調子で、「お姉ちゃんは偉い」と胸を張る面と、「お姉ちゃんらしく、ちゃんと弟の面倒は見る」と殊勝な面が絶妙に絡み合っているのです。

アタシは姉よ！　偉いのよ！　と、ふんぞり返ってもいい。でも、姉としてなすべきこともしてくれる姉はもっといい。

弟の柚樹は姉のことをうるさい奴だなぁと思っていても、決して本気で嫌っているわけではなく、プレイヤーから見てもただウザいだけではない好印象の姉。そんな上手い描き方になっています。

■きっかけはエッチなことでも

時に姉の横暴や理不尽に弟は耐え、時に姉は器用に家事をこなして弟の面倒を見てくれる。

特段仲が良いとは言えないが、だからと言って険悪な仲でもない姉弟関係に、ある日転機が訪れます。

それは、姉弟ならいつでもあり得る事件。

弟が風呂に入ろうとドアを開けると、そこには入浴中の裸の姉が……！

びっくりしつつ、姉の裸体に釘付けの弟。「早く出て行ってよ！！　ヘンタイ！！」と取り乱す姉の前に退散するが、姉の胸のふくらみは目に焼き付いてしまう。

今まで、女子の制服着てる男……ぐらいにしか思ってなかったけど、身体は『女の子』なんだよなぁ……。
よく考えたら、姉ちゃんも女の子なんだ……。
おっぱいもオマ〇コもあって……
俺は、同い年ぐらいの女の子と一緒に暮らしてて、同じお風呂使ったり、隣の部屋で着替えたりして。これって、すごいことなんじゃ……。

思春期の弟に芽生えた、姉の女の子の部分への興味。

姉のいない小弟にとって、姉とは「異性として意識しない関係」も「異性として意識してしまう関係」も、どちらも憧れで、大好きなんですが、初めて意識してしまう瞬間は大人の階段の１段目だと思うのです。それは、お赤飯を炊いてお祝いするくらい大事な日。

なんてことのないラフな室内着にドキッとする。毎朝姉に足で踏みつけられて起こされる時に見えていた黒スト越しのパンツに改めて興奮する。それは弟ゆえに許された特権。

姉に対する性的な興味はとどまるところを知らず、姉の洗濯物に手を出したり、こっそり部屋をのぞき見してしまうのは必定。

当然、弟の毎晩のソロ活動はお姉ちゃんお姉ちゃんお姉ちゃぁぁぁんっ！　状態。

最終的には姉バレして、「いい加減、私でオナニーするのやめてッ！！！！」と禁止令が発動します。（このセリフだけ抜き出すとネタっぽいのですが、このイベントはストーリー上重要なシーンなのです！）

サル並に堕ちてしまった弟は、姉を性的にしか見ていないのかと思えば、実はそうではない。きっかけは体目当ての性的なものだったとしても、姉を見つめ続けるうちに気付く姉の内面の優しさ、可愛さ……。

おっぱいなら誰のものでも良かったのが、今や姉ちゃんのおっぱいじゃなきゃだめだ、と悟る弟。

（以前は）姉ちゃんでオナニーする時も、おっぱいがメインで姉ちゃんがメインじゃないって感じ。顔見えてなくても問題ないみたいな？でも今は、姉ちゃんのおっぱい、姉ちゃんのパンツだからオナニーしてるって気がする。

ただのエロガキから立派なシスコンへと成長する弟の姿にもご注目ください！

■キャラクター

・佐倉杏奈

主人公の実姉。

文武両道で、ソフトテニス部の部長で、周囲の信頼もある優等生。

一つ年下の弟に対しては、事あるごとに「お姉ちゃんは偉い」と胸を張り、都合が悪くなると「お姉ちゃんだからいいの」で済ませる姉特権をフル活用。

しかし、ただロうるさいだけではなく、家事をこなし、保護者として弟の面倒を見る優しさも見逃せません。叱ったりケンカしたりもするけど、弟が嫌いなのではなく、何のかんの言って実は可愛く思っている。

弟がうっかり姉の入浴を覗いてしまった時、「罰としてあんたのアイスもらうからね！」と怒りながら、アイスは半分残しておいてくれるイベントは深い味わい。

エッチなことは人並みに興味はあるものの、恥ずかしがり屋。弟が自室でソロ活動をしていることを察して軽口を叩くが、部屋を出てからドキドキしてしまうタイプ。

弟から「姉ちゃん可愛い。姉ちゃん好きだ」と打ち明けられ、キュンとしてしまう姉心も素晴らしい。

わがままで、偉そうで、弟思いで、世話焼きで、優しい。そんな要素がバランスよく詰まったお姉ちゃんです。

■シスコン、ブラコンの「めばえ」

弟に初めて芽生えたのは、年頃男子特有の、姉に対する性的な興味。しかし、エッチな事件を重ねるうちにお互いがシスコン・ブラコンに目覚めていく良作でした。これはぜひプレイしておきたい姉ゲーです。

姉にこの夏

メーカー	CLOCKUP
ジャンル	姉攻め弟受け ADV
発売日	2012 年 6 月 29 日

もう我慢できない！　俺は出ていく！

（中略）

姉ちゃんの世話ばっかりで自分のこともままならない。

このまま人生を姉たちに食い潰されていいのか？

姉ちゃんたちから解放されて、俺は俺の人生を歩んでいくんだ。 さようなら、姉ちゃんたち。

勇躍、家出をして祖父の残した海の家で新生活を始める俺。これからは全部自分の力で、自分の責任でやって行くんだ。

失われた青春を取り戻す！　固く誓って、すべてを捨てて出てきたハズなのに……。

って！　なんで姉ちゃんたちついてきてんだよ！

仕事は？　学校は？　向こうの家はどうしたの？

隙を見ては夜這いをかけてくる姉ちゃんたち……。 姉ちゃんたちどうしちゃったんだ？

自立どころかこれじゃ、姉ちゃんたちの性奴隷（おもちゃ）じゃないか！

■姉に(中略)この夏。

正式名称「姉に振り回され手篭めにされて俺もうダメかもしれないこの夏。」略して、「姉にこの夏。」

登場するお姉ちゃん達は４人！

舞台は海の家。季節は夏。

いやー、たくさんのお姉ちゃんに囲まれるゲームと夏はよく似合う。なぜでしょう、開放的な季節に、がやがや騒がしい生活といえば夏のイメージだから？　（反対に、姉と弟が一対一でじっくり向き合う姉ゲーは冬がよく似合う。）　過去の姉多人数型の名作も６月や７月の発売で、季節は夏というパターンが多くありました。

本作も、まさにその黄金パターン。

４人の姉に前後左右を固められて過ごす海の家生活が始まります。

■騒がしくて楽しい姉4人

主人公・里見湊人は、ついに我慢が限界に達した。

一緒に住む４人の姉達に、パシリをさせられ、いい歳になっても子供扱いされ、姉の生活力ゼロゆえに頼りっきりにされ、何かとお小言を言われ……。それぞれ形は違えど、弟に構い過ぎの姉達から離れるため、湊人は家出を決意する。

って、いきなり姉離れ宣言か！

いや、これは姉が嫌いになったとかではなく、逃避と言うよりは彼の独り立ち計画の実行なのです。弟が姉の過干渉を絶ち、独立を目指すのは、自分探しの旅(笑)のような、一種の熱病なのかも知れません。

ま、お姉ちゃん達から一時離れても、すぐに追いつかれてしまうわ、姉から独立するはずだったのが逆に姉の存在の大きさに気付いてくっついてしまうわ……。結局、弟はお姉ちゃん達とは離れられない運命であると悟る訳ですけどね！

祖父の残した海の家を独りで再建するつもりが、逆に姉達の助けを得て、その中で誰か一人心に決めた姉と結ばれていく様子を綴っています。

海の家の開業と経営にあたって、面倒見の良い姉は器用に切り盛りし、真面目でツンな姉は小言を言いながらサポート、天然の姉は相変わらずのんきにマイペースで、暴君の姉は酒持ってこーいとお客まがい。

ほとんどが姉４人セットで行動するこうした日常シーンは、姉ゲーの雰囲気作りの観点からは正解。せっかくたくさんのお姉ちゃんが登場するんですから、家族の一体感を感じ取りたいじゃないですか。

それに、４人のお姉ちゃん達が一つの出来事に四者四様の反応をするのも姉個性が見え隠れして面白い。

家出した弟に追いつくと、長女は自分の許可無く出て行った弟に飛びかかり、心配性のお姉ちゃんはほっとして泣き出すし、脳天気なお姉ちゃんはごはんごはんーと甘えるし、真面目なお姉ちゃんはお小言の一つでも始めそうな勢い。

いろいろな反応が返ってくる楽しさこそ、たくさんの姉が登場するゲームの面白さ。

後半の個別ルートに入っても、他の姉達が空気になることもなく、冷やかされたり後押ししてくれたりするのも〇です。

■血の繋がりは大切で……

ただ、血縁関係や姉弟関係の設定・描写については、各プレイヤーのポリシーによってはマイナス評価を免れないところ。

主人公は養子であり、姉達とは血縁関係がなかったこと[1]を、比較的序盤で姉から打ち明けられます。

主人公にとっては、その時点で少なからずショックを受けますが、寝込むほどではありません。

しかし、お姉ちゃん達の反応は、評価が難しい。

たとえば弟の家出後、彼が養子であることを知る長女の九重姉さんが二女の八重姉さんに、さらっと真実を告白するシーン。

> 九重「だってあいつも養子だからな。湊人は父さん達の親友の子供で、事故で両親を失って天涯孤独になったのを引き取ったんだ」
> 八重「こっ……九重姉さんっ、それ本当なのっ！？　結婚できるのっ！？　湊人ちゃんの赤ちゃん産めるのっ！？」

おそらく一般的な読み方は、どんなに弟のことを愛していても、実の姉弟として結ばれることは許されないと諦めていた姉が、その障害は無かったんだと喜ぶ姿。それほどまでにお姉ちゃんはブラコンだったってことでしょう。この読み方で問題ない人には問題ないのです。

ただ、血縁主義者にとっては、おそらく見過ごせない表現。

血を分けた姉弟だと信じていたことが否定されるのは、喜ぶべきではないはずなのに……、血縁を重視する立場にとって最大の味わいである背徳感が失われてしまうのに……といったように。

姉弟が非血縁者だと分かって喜ぶか悲しむか。そこには天と地の差があるのです。

筆者は、姉萌え業界の中では多数派のMっ弟（こ）ですが、血縁関係についてはあまり重視しない、もしかしたら少数派に属する弟[2]なので、正確に血縁主義者の主張を代弁していないかも知れません。

が、上記のシーンだけでなく、全体として弟が養子であることが肯定的、ご都合主義的に使われているのは、多分評価を下げています。

血縁があるなら近親相姦のタブーや背徳

---

[1]後述のとおり、姉の中には最初から実の姉ではないと分かっている姉もいるので、長女・二女と血の繋がりがなかったことが明らかになります。

[2] 血縁の有無より、どれだけ同じ時間を積み重ねてきたか、どれだけ気を遣わない関係を築いてきたか、そういった要素の方が気になります。

感は避けては通れない。だからといって、非血縁にすれば問題ない、ではないのです。むしろ非血縁設定の方がハードルは高い。なぜなら、血縁のない他人同士が、それでも姉弟であると言えるだけの強い何かを持っていると示さなくてはならないから。

この部分を真剣に描いた義姉弟は、時に実姉弟を超えます。

本作にも、そういう関係の姉弟が描かれれば、さらに評価アップしたはずでした。

■キャラクター

・里見九重（長女）

泣く弟（こ）も黙る無敵の長女様。

弟は小間使いさせ、姉の命令には絶対服従させる女王様。

酒飲みっぽい豪快な性格で、弟に絡みオモチャにして楽しむ。

弟をこき使った後は、お礼と言わんばかりにセクハラ級のスキンシップ。

そんな暴君は、それでも好きだと弟に告白されてしまうと、なんと乙女化。顔を赤くして照れまくり、強気な態度は申し訳程度の照れ隠し。この落差が可愛い姉貴です。

・里見八重（二女）

長女が暴君なら、二女の八重姉さんは民を思う良きお姫様。

思いやりのある優しい八重姉さんは、いつも弟のことを気にかけて見守る良き姉。きっと子どもの頃から面倒を見てもらってきたんだろうな、と思える姉さんだが、いい歳になった今も子どものように心配されることに弟はうんざり気味で……。

初めから弟大好き光線を出す姉さんは独占欲が強いようで、最後には度が過ぎて病み気味に……？

・里見えみる（三女）

親戚筋からのもらわれっ子。自由奔放で、語尾に「なの」が付く、天然系不思議ちゃん。

生活力皆無で、弟の世話が無ければ衰弱してしまう心配な姉。

弟の作る食事が何より好きで、お腹が空くと、ごはんごはんとせがまれる。

支えてあげたくなる姉として登場しますが、意外な頼もしさがあれば完璧だったか。

・里見静（四女）

実の両親に捨てられた、もらわれ養子。

その立場故、家族の中で壁を作りがち、と公式紹介にはありましたが、そんなにとげとげしいものではありません。確かにお小言は多く、甘やかしてくれるような態度はゼロ。でも、弟のことを思って真面目にしかってくれる良い姉。意外に取っつきやすく、デレた後は押しに弱い面もあって可愛さアップです。

■姉4人と過ごす夏

海の家の再建を中心に、姉４人に囲まれて過ごす夏の姉ライフを楽しむことができました。

ただ、姉弟から恋人関係への変化がちらつくのは、姉弟は姉弟として添い遂げるべきであるとの信念を持っていると、その点についてはいささか残念ではありました。

ヘタレ姉。

著者	春夏アキト
発行	JIVE
発売日	2012 年 2 月 7 日

篠村真夏（146cm）と衛太郎（187cm）の二人は、身長差 40 センチの凸凹姉弟。

さらにお姉ちゃんは“弟頼り”の“ヘタレ姉”で、弟は“お姉ちゃん LOVE”という“困ったヤツ”だったり。

そんな姉弟が“ふたり暮らし”を始めちゃう！？

ドキドキの“姉弟ラブコメ”が登場！

■単行本、出ました！

ちっちゃいお姉ちゃんと背高のっぽの弟が登場する『ヘタレ姉。』。

同人 WEB コミックとして昨年の会報でも取り上げた作品が、商業誌進出＆コミックス発売にまで大出世！

その栄誉を称えるとともに、コミックス化によって新たに加わった要素を紹介しておきましょう。

■登場人物も増えて

一応おさらい。真夏（まな）お姉ちゃんはいつも明るく陽気な 146cm。特技：ふふーん！　と胸を張って弟に頼もしいところを見せる。弱点：ヘタレなので頼もしいところが続かず弟に泣きつく。

衛太郎は隠れシスコンの 187cm。純真な姉をいじるのが好きな割にドがつくヘタレ。

商業連載以降、この凸凹姉弟に加えて二人の登場人物が増えました。

真夏姉の同級生で、日仏ハーフの里緒菜先輩。いたずら好きのトラブルメーカーで、篠村姉弟（特に姉）に要らんお節介をしてはケタケタ笑う憎めない先輩。幼い弟持ち。

もう一人は衛太郎の同級生の日鞠ちゃん。黒髪とまゆげがチャームポイントの、衛太郎に密かに恋する女の子。姉にしてみれば弟に付く悪い虫にあたるが、真夏姉は弟を独占したいとか一線越えたいといった欲望はない上に、日鞠ちゃん自身が奥手なので、詰まるところ無害。

この二人に絡んだり絡まれたりしながら、ドタバタは加速していくのでした。

■もちろん基本は姉弟4コマ

登場人物が増えて賑やかさ倍増。WEB コミック時のような二人っきりの濃密さと引き換えですが、世界が広がりました。

真夏姉はみんなから小動物扱いで可愛がられ、衛太郎は姉以外にはバレバレのシスコンを冷やかされ。読んで和む姉４コマの傑作です。第２巻も発売決定！　祝！！

「おねえちゃんがほしい…っ！」

とことん不幸なうえに天涯孤独の寂しい少年・真下遙。

バイトをクビになった帰り道、流れ星にそう願った遙は、行き倒れになっていた“まのん”を拾う。

助けてもらった礼に

「私がおまえの姉になってやろう」

と言い出すまのん。

しかも彼女の正体は魔法少女だった！

さらにおねえちゃんが２人も現れちゃったから、さあ大変！

姉萌え魔法少女ラブコメ誕生。

■姉ライターといえば

姉作品を手がけるクリエイターは、やっぱり姉萌えに理解があって、姉好きでないとだめだと思うんですよ！

オリジナルのライトノベルなら、自ら進んで姉で書きたいと志願する作家さんや、すでにゲームのシナリオやノベライズで姉キャラを担当した作家さんとか、そんな人じゃないとフェチズムが伝わってこないというか。

その条件にふさわしい先生は、具体的にいえば本作の著者・佐々宮ちるだ先生。

先生の手による『姉、ちゃんとしようよっ！』の‘番外編’ノベライズは、単なるゲームのノベライズではなく、文字通り番外編的なストーリーを４巻にも渡り展開してくれた作品。原作のイメージを損なわず、姉ゲーとしての姉しよの魅力を引き出したその手腕によって、小弟を含む姉スキーらに名を知らしめることになり、最近では姉コミックの名作『Swing Out Sisters』（東雲太郎）のノベライズ担当として白羽の矢が立つなど、業界ではもっぱら「姉なら佐々宮」「姉の佐々宮」との評判が立っている（に違いない）。

その先生が満を持し世に放つ姉ノベル！

■姉+魔法少女=まほねーず

天涯孤独な男子高校生・遥が「おねえちゃんがほしい……っ！」と星に願いをかけると……

魔法少女お姉ちゃんを拾った！

魔法少女お姉ちゃんが現れた！

魔法少女お姉ちゃんが降ってきた！

そんな、夢の展開で始まる「姉萌え魔法少女ラブコメ」（公式）です。

恵まれない身の上に降って湧いた幸運。

ただ、突然の姉３人との生活はドタバタ続きで、その上魔法少女としての戦いも始まっちゃったりして、姉３人弟１人の騒がしくも賑やかな日常が始まった、というストーリーです。

姉ノベルとして見た『まほねーず』は、大きな枠で捉えれば、新たに姉弟となった登場人物同士が家族の姿を形作っていく過程に、個々に見れば、お姉ちゃん達に可愛

がられたり支え守られたりする姿に、その楽しみがあります。初巻では、お姉ちゃん達の紹介が中心となって、姉萌え要素がふんだんに盛り込まれています。

弟を賭けた魔法少女対決（そこから生まれる家族愛）→えっ！　お姉ちゃん達が学校に転入？（お約束）→妹的な幼なじみまで魔法少女化してお姉ちゃん達と決戦？（哀れ当て馬）……といったお話が姉コン主人公・遥の目を通して繰り広げられます。

ここで、本書の姉萌え要素と絡めて、各お姉ちゃん達の紹介をしましょう。

姉登場順にまず次姉の、まのん姉さん。

銀髪とつり目が印象的な貴族階級のお嬢様で、性格はクールで気高いお姉様気質。実の弟持ちだったら、「姉たる者、弟は厳しく育て上げねばならん」のポリシーを持っていたに違いない、父性を持った姉。

しかし、ちょっと恥ずかしがりで、弟に甘い面もあって、遥からハグやなでなでをして欲しいと望まれると、

「な……こ、この虚け者っ！」

と赤面しつつも、しぶしぶ了解してしまうところも可愛ければ、自らあまり自信のない魔法少女のコスチュームを褒められると

「あ、姉に向かって『かわいい』なんて、おとうとのくせにな、生意気だぞっ」

と照れまくる姿が弟心をくすぐります。

次に、長姉になる、まりあお姉ちゃん。

「ワタシ、今日からハルちゃんのお姉ちゃんになりま〜す（ハート）」とルンルン気分で現れた、陽気で温厚な、おっとりお茶目さん。

聖母のような包容力を体現した悩ましいボディの持ち主。遥が可愛くてたまらないとばかりに姉ハグ（姉が自らの双丘で弟を受け止め、抱き締める姉弟間の愛情表現行為）を得意とする。

彼女も魔法少女ですが、歳は

まのん「私は十八だ」
まりあ「そっか。じゃ、ワタシは十九でいっか♪」

ということで、自称１９歳。いやいやいや、ダダ漏れの色香と穏やかな物腰、そして挿絵からして十代は厳しく、フリフリのスカートにハート型ステッキの魔法少女姿は痛々しいと評されかねませんが、昨今は外見の無理感にときめきを覚える輩もいるので、かくいう小弟も実は少々興奮を……。

もちろん、そんなことを他人に言われれば、ちょっといらっしゃいと笑顔で陰に連れ込まれるお仕置きが待っています。

最後に、まひるお姉ちゃん。

おかっぱ眼鏡っ娘の彼女は遥より一日年上の姉。オドオドあたふたして、ごめんなさいごめんなさいっ！と謝る姿がデフォルト。その意味では頼りない、支えたくなる姉ですが、巨大ハンマーを振り回す怪力持ちで、家事もこなせる家庭的なお姉ちゃん。

上２人の姉がお父さん・お母さん的なら、彼女は姉的な位置で、ほとんど同い年の遥とは友達のような関係になるでしょう。

ちなみに９人姉妹の末っ子出身、とのことなので、新米お姉ちゃんとして頑張る姿、姉の自覚が芽生える姿も見られるのかなと。

■スーパー「姉」バイザー推薦

実は『まほねーず』発行前、光栄にも佐々宮先生からプロットを拝見し、感想を伝える機会を得ました。その段階でも、姉ノベルとして楽しそうだなぁと期待していたところ、それは期待以上に現実になりました。

立場も出身も違う登場人物達が、姉弟の関係を結び、共同生活をしていく中で、ひとつの家族になる過程も一つのテーマと聞いています。

続刊もめでたく決定。姉×魔法少女のまほねーずワールドはまだ続いています。

キスの練習して

おっぱい揉んで

初体験しちゃう？

毎日なにかと甘えカラんでくる姉の野木撫香（高３）！

今日のテーマは○○よ！

魅惑のＧカップで一放課後先生プレイ　メイドご奉仕スク水お風呂　と迫られつづける、幸せ、もとい困った日々。

美少女文庫が贈る、日常系姉弟ラブ！

■○○過ぎることはいいことだ！

最近のライトノベルの流行りに乗ったタイトル名。

美少女文庫さんの作品ですから、まあその～、何と言いましょうか～、弟くんのことが好きすぎるってことだけでなく？　お姉ちゃんが弟のココロだけでなくカラダまで求めすぎるとか、お姉ちゃんのスタイルや行動があまりにもセクシーすぎるんじゃないかとか……

まどろっこしくてスマン！　ぶっちゃけ、**姉ちゃんがエロすぎる**んじゃないかと、表紙を見た姉属性男子 100 人中 150 人はそう期待するはず！

それは間違ってはいないのですが、正確

ウチの姉が○○すぎて困っている件

著者	みかづき紅月
イラスト	鷹乃ゆき
発行	フランス書院美少女文庫

にはナニすぎるのか、その答えは目次にありました。

ウチの姉が弟好きすぎて困っている
ウチの姉がキス魔すぎて困っている
ウチの姉が巨乳すぎて困っている
ウチの姉が初体験すぎて困っている
ウチの姉がＨな先生すぎて困っている
ウチの姉がご奉仕メイドすぎて困っている
ウチの姉がなぜか妹すぎて困っている
俺はやっぱり姉が好きで困っている
私も弟クンが大好きすぎて困っちゃう

いくつか謎の変化球が……？

しかし、各章の内容を簡潔に表しています。章題のとおり、そのまんまです。

結局のところ、貴弟が期待した「○○すぎる」は、ちゃんと実現されています！

■ウザ可愛い姉・撫香姉ちゃん

主人公姉弟は、いずれも高校生の撫香（なでか）お姉ちゃんと、その弟・大（だい）。

両親がフランスへ出張に行ってしまい、これから半年間、姉弟二人っきりの生活が始まる、という時点から話は始まります。

いつものように、学校から帰宅した弟。玄関のドアを開けようとすると、元気よく「おかえりなさい！」と飛び込んできたのはお姉ちゃんでした。**裸エプロンで**。冒頭から飛ばしてます、このお姉ちゃん。

それに対し、弟はドキマギしたり焦った

りすることもなく、反射的にドアをバタン。姉はゴツン。お姉ちゃんはおでこをさすりながら「ちょっと！　弟クン、今のはないんじゃない!?　今のはっ!?」と猛抗議。

なぜ弟クンはこんなにそっけないのか。それは、お姉ちゃんの奇行は今に始まったことではなかったから。

撫香お姉ちゃんは可愛らしい童顔と見事なメリハリボディに恵まれた姉。

いつも陽気、ちょっとわがままで子どもっぽいところもある姉は、弟クンのことが大好きなブラコン！

そのブラコンスタイルは、何かと弟にじゃれついて困らせるような（姉としては困らせるつもりはない）もので、自称・ウザ可愛いお姉ちゃん。

お姉ちゃんは脳の構造が比較的単純で、テレビや漫画、友人からの影響を受けやすく、何かにハマってはマイブームに弟を巻き込んでしまう。だから、裸エプロンで飛びついてきた姉に対しても、弟にとっては「またか……」というワケ。

ちなみに、お姉ちゃんがハマったのは、テレビ番組『新婚さんいらっしゃい！』に触発された新婚生活。両親不在の半年間、親の目を気にせずあんなことやこんなこと目一杯しようと目が輝いているのでした。

これと対照的なのは弟。好奇心旺盛な姉のやんちゃないたずらの巻き添えを食らい、それでもケロッとしている彼女にはもうたくさんだとうんざり気味で素っ気ない。

次に弟クンがメイド好きだと早合点した姉は、メイド服に身を包んで……

「ご主人様、お風呂にします？　ごはんにします？　それとも……メイドのご奉仕に……します？」
「――じゃ、ごはんで！」
「……むぅううう。空気読んでよ。むしろ、読もーよ！　いや、読んでください。ご主人様」

読者としては、「弟クン！　そこは喜ぶところだよー」と撫香姉口調で突っ込みたくなるところですが、素直に喜んじゃうと、じゃれつく姉×逃げる弟、の構図が崩れてしまうので仕方ない。

もちろん、お姉ちゃんの可愛い仕草にドキッとしてしまう時もあるのは弟として当然のこと。

姉の言葉に不意をつかれ、大の心臓がバクンッと跳ねた。すると、撫香が口をωの形にして、いたずらっぽく笑う。
「えへへ、弟クン、今、ドキッとしたでしょ？　バレバレだよ、バレバレ！」
「……別に、自意識過剰すぎだっての」
「むぅ。素直じゃないんだから。さては思春期ね！　反抗期ね！　おねーちゃん、知ってるんだから！」

得意満面で嬉しそうに話す姉に「軽くイラッとする」のが本書でのお約束。これがリアルで自分のことならイラッとなんてしないけど、ウザカワが売りのお姉ちゃんなので、可愛いと思う前に「イラッ」としちゃうのがむしろマナーでしょう。

■ウザいは正義

弟に勘違いさせて「じょーだんだよ。じょーだん♪」と身をかわす罪なお姉ちゃんに困っていた弟。キスをきっかけに急接近し、次第に姉が愛しくなり、大事に思う気持ちが高まる様子も描かれ、ブラコン・シスコン両想いの結末が待っています。

弟が時折Ｓっ気を出すのは好みの問題としても、需要は低いと思われる兄妹プレイや、一瞬姉と弟を忘れるかのような描写は蛇足と言わざるを得ませんが、それを差し引いても十分に姉ノベル。

ありそうであまりなかった「ウザカワ姉」に、姉業界の新たな地平を見ました。

あねざかり

著者	藤凪かおる
発行	芳文社まんがタイムコミックス
発売日	2012 年 1 月 22 日

新米社会人ひなた（♂）の自慢の姉、ひかりは近所でも評判の美人。

でも性格に少々難アリ！？

深夜ハツラツと工事現場で働く彼女も、朝はめっぽう弱く日中は眠気ＭＡＸ。

元気いっぱいのおねえさん、（眠くて）アンニュイで無防備セクシーなおねえさん、どちらがお好み？

■真夜中は別の顔！？

眠り姫が長い眠りから目覚めたばかりのような物憂げな瞳。どことなく気だるい表情。色白で、しおらしい態度……。

はかなささえ感じさせる本作の主人公は望月ひかり姉さん。

４コマ漫画の姉といえば、弟を振り回したり、手玉にとってもてあそんだり、そんなタイプが多い中では珍しい設定に思われるかも知れません。

……が、それは昼の顔で、夜を迎えたひかり姉さんは別の顔。

元気いっぱいで内外構わず駆け回り、食欲旺盛、時には弟を巻き込んで騒動を起こすアクティブな姉さんに大変身。

180 度違う昼の顔と夜の顔。この昼夜のギャップが『あねざかり』のオチの中心であり、かつ、ひかり姉さん最大の魅力でもあるのです！

■弟のために姉は今日も…

夜中に元気な姉さんと紹介してしまうと、夜更かしが好きでだらしない人間と勘違いされてしまいそうですが、そうじゃないのです。

姉さんの仕事は夜の工事現場。

こんな美人のお姉さんがゴツい男の職場に、というギャップも萌えますが（ちなみに筆者は道路工事で女性の誘導員がいると見とれます）、その理由も姉萌え向け。父親がおらず、母親も病弱な一家で、弟・ひなたが高校を卒業できるよう家計を支えるため、姉さんは夜のお仕事に立ち上がったのです。

弟が独り立ちできるようになるまで姉ちゃん頑張って働くからね、と力仕事に就いた彼女の苦労を思うとき、姉は実に偉大なり！　と、原作には無い勝手な想像をしてしまう姉萌えバカ一代で申し訳ない。

■夜型姉さん、心配性の弟

完全夜型人間のひかり姉さんは、昼間はぽや～っとしていて眠たそうな表情が魅力。普通の人にしてみれば真夜中に起こされているのと同じわけで、基本的にはよくできた姉でも、本調子でない昼間はドジ姉属性が中心。

しかし、日中寝て夜中を迎えた姉さんは、闇夜に舞う吸血鬼のごとく元気はつらつ。よく働き、よく食べ、よく呑むガテン女子。

細かいことにこだわらない大らかな性格で、子どもの頃はおてんばだったのが少し収まったくらいのお姉さん。

弟の目の前で下着姿になるのはなんてことのない典型的な無防備お姉さんで、弟のパンツを借りて過ごしたり、弟のぬくもりが残る布団でおやすみしたりするシーンまであるんですよ！

家族の中では女性であることをあまり意識しない姉の姿をそのまま描こうとしたものでしょうが、強度のブラコンを患う姉の生態を見てきた小弟には、もしや姉さんも重い病気にかかったのでは？　と期待するレベル。

しかし、姉さんの方にはブラコンと呼べる意識はない様子。ひかり姉さんに関しては、「ブラコン」よりも「弟思い」と言い表した方がおそらく正しい。家族を支えるために肉体労働を始めた設定もそうですが、頑張る弟の後ろをこっそりついて行き、フォローしようとするストーリーもあって、良い姉弟愛を感じ取ることもできます。

一方、弟・ひなたはどうか。

こちらはもう間違いなくシスコン。かわいそうなほどにシスコン。

シスコンの傾向としては、甘えたり依存したりはなく、姉さんのことがいつも気にかかる心配性型。

目下、最大の心配事であり懸案事項は、姉さんの夜の仕事。

弟が無事に就職できた今となっては、姉さんが無理に夜の仕事を続ける理由はないので（ただし、姉さんは好きで夜の仕事を続けている）、事あるごとに昼の仕事を見つけてもらいたいと思っているが上手く行かないのが悩みの種。

ウェイトレスに挑戦させた時は、姉さんの仕事ぶりを陰から確認しに行くほどの心配性。その役は普通は姉だってば！

気を抜くとだらしない生活になるお姉ちゃんのお目付役でもあり、「もう、姉さんったら！」と年中思っているに違いないが、それはきっとツンデレお節介幼なじみ的な思考回路だぞ、弟よ！

■姉弟メインのホームコメディ

本作の登場人物は、姉さん、弟、病弱な母親の３人家族と、同級生の男女（男の方は姉さんに片思い）のみ。

限られた登場人物の中で展開される漫画で、話の舞台もかなりの割合で自宅が中心。

姉キャラが外部の登場人物と絡んでばかりで姉弟っぽさがない、なんてことは本作についてはまったくなく、ホームコメディの要素が大きい作品なので、たーっぷりと姉と弟のやりとりや姉さんの日常が読める姉コミックになっています。

眠気ではかなげな印象の昼間の姉さん、目がらんらんと輝く夜中の姉さん、どちらも非常に素敵でした。

お姉ちゃんが来た

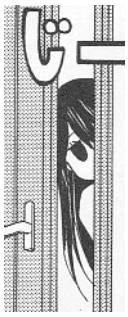
著者	安西理晃
発行	竹書房　バンブーコミックス
発売日	2012 年 6 月 27 日

水原朋也 13 才。

父親の再婚によって変な姉・水原一香 17 才が出来ました。

お姉ちゃんからの愛が…重い…。

■親の再婚で「姉」できました



あーもう、どいつもこいつも「親の再婚」でお姉ちゃんを手に入れやがって！！

生まれた時点で姉がいないことが確定する負け組にとって、唯一の望みである「親の再婚」によるお姉ちゃん登場イベント。

確かに、このイベントが発生するには、親の死別や離婚など辛いイベントが前提となるわけで、誰もが好きこのんで起こしたいものではないけれど……。

それでも甘い響き「親の再婚で出来た姉」。

姉の欲しかった弟、弟の欲しかった姉には夢が叶う奇跡。

血の繋がりはないけど、姉弟で愛し合うのは倫理的にいいの？　ダメなの？　的なあいまいさ。

血の繋がった姉弟ではない故に、家族愛って何だろうと追求する物語性。

お、二次元に親の再婚率が高い理由が分かって来たかも。

ただ、『お姉ちゃんが来た』に関しては、そんな小難しいことを考えずに、ブラコンきわまる一香お姉ちゃんの爆走を楽しめる姉コミックですけどね～。

■姉はストかわ（ストーカー可愛い）

主人公・水原朋也君は男子中学生。

父親との男二人暮らしから、突如新しい母親と、お姉ちゃんが家族に増えて、戸惑うばかり。

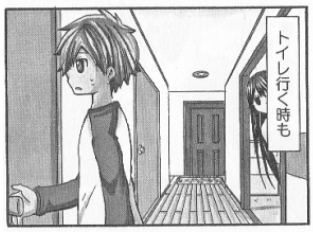
ここまではよくある話。

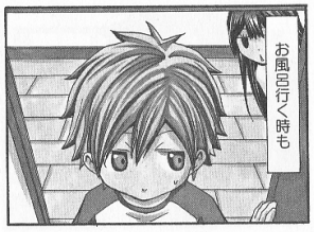
あまりない話は、お姉ちゃんが過激なブラコンだったってこと！

一人っ子だったお姉ちゃんは、ずっと弟や妹が欲しかったようで（兄や姉でないところが生来の姉気質か？）、新しくできた弟のことが可愛くて仕方がない。

まだよく知らない弟のことを知りたい、姉弟として過ごせなかった時間を埋めたいと思ったお姉ちゃんはどうなったか。

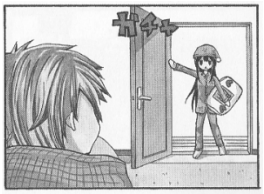
弟ストーカーになりました。





弟が外に出かける時はもちろん、朝起きてから夜寝るまで、いや、夜寝た後も弟に興味津々。長年望んで出来た夢の弟クンですもの、それくらい見守ってトーゼン！

ストーカーって言うと人聞き悪く感じますが、母親による子の育児放棄が社会問題化する中、お姉ちゃんが弟のことをしつこく見守って何が悪いの！？　好きな人のことを見つめていたいのって、人の本能じゃない！？　小弟は強く訴えたい！



お姉ちゃんはただ見ているだけではないですよ？　弟のベッドにだって正々堂々正面から潜ってきます。お姉ちゃんは、やる時はやる人です！

激しいアタックに、弟クンはほとほと困った様子（贅沢言うな！）。参ったな、勘弁して欲しいな、と思う一方、お姉ちゃんが嫌がらせでしていることではないと分かっているので、無下にもできない。

姉の喜ぶ姿には弱く、流されやすい弟性格もすでに身につけたようです。

■小姑魂に目覚める姉

新しくできた、私の弟。これから一生仲良くしていくんだ、と心に誓ったお姉ちゃんに敵が現れます。

姉にとっての敵と言えば、弟に這いよる悪い虫。

朋也のクラスのアイドル・藤咲さん（腹黒）。とある事件でお姉ちゃんアイに敵と認識され、小姑魂に目覚めて大変なことに。

対抗心丸出しの姿は、人間的には醜いと言われようと、ブラコンお姉ちゃん大好きな我々にとっては、姉の模範的な姿。

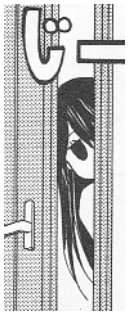
露骨に敵意をむき出しにして衝突する姉VS悪い虫のシーンは、ブラコン姉漫画らしい面白さです。

ところで、サブキャラには姉の同級生・ルリルリさんがいるのですが、彼女もまた弟持ちで、弟は屈服させる独裁スタイル。尻に敷かれたい！

■追う姉、追われる弟

好き好き光線出しまくりの姉と、戸惑い逃げ回る弟。

作者あと書きには「誰かを追いかけ回すマンガが描きた」かったとありましたが、姉が追いついてしまってはマンガも終わってしまうので、朋也クンにはもう少し我慢してもらいましょう。



姉を持った弟にプライバシーなんてものはないのです！

ふぇちっくす！

著者	幾夜大黒堂
発行	フレックスコミックス
発売日	2012 年 6 月 12 日

「小・中と別の学校に通っていた、愛してやまない弟が、ついに自分の通う高校に入学してくる……！」

常時ハイテンションで暴走気味な姉「橋之本 真綾」は友人たちと一緒に、入学式に登校してくるであろう弟「倫太郎」を待ち構えていた。……のだが、なぜか時間になっても現れない……!?

「まさか事件にでも巻き込まれたの!?」

心配する一同だが、事態は想定外の方向に転がりはじめ……!?

登場人物全てが(ある意味)変態ミ☆ ハイテンション学園フェチラブコメ、はじまります♪

■姉モノといえば女装モノ

姉モノと女装モノの取り合わせって、本当に多いと思いませんか？

お姉ちゃんが弟を着せ替え人形のごとく遊んでしまい、弟がそれに目覚めるから？

年の近い異性の服が弟の目の届く範囲にあって、興味を引き起こしてしまうから？

そんな経験のある姉持ちの漫画家、作家が作品に影響を及ぼしているのか？

妹持ちの兄の女装はちょっとアレな感じがするが、姉持ちの弟の女装はアリだ。

この辺にヒントがあるかも知れない……。

■ハイテンション弟フェチの姉

著者の幾夜大黒堂先生の姉マンガ代表作は、『姉と女装とエロ漫画家』[3]。

シスコンで、女装趣味があって、エロ漫画家の主人公が、壁にぶつかり回り道をしながらも、己の信じる道を突き進む作品。

成年コミック１冊丸ごとのストーリー作品で、大変読み応えのある姉マンガとして、全姉連おすすめの１冊です。

その幾夜大黒堂先生が、WEB コミックサイトで姉系に定評のあるフレックスコミックス[4]で全年齢向けのブラコン姉漫画の連載を始めたって聞いたら、もうクリックするしかないじゃないですか！

わくわくしてクリックした第１話。

モニターに映し出されたのは、ブラコン溢れて輝いているお姉ちゃんでした！

[3] 全姉連会報第 11 号にてレビュー掲載。

[4] 『夕日ロマンス』（カトウハルアキ）、『私がお姉ちゃんなんだからね！』（鰻丸）のほか、『ブラコンアンソロジー Liqueur ―リキュール―』も同サイト発。

数年間会っていなかった弟が、自分と同じ高校に入学してくるその日、待ち遠しくてたまらないお姉ちゃんは、いつにもましてハイテンション。

しかし、愛しの弟王子様の姿はどこにも見あたらず、一体どこへ……！？

慌てふためくお姉ちゃんの前に現れたのは、女の子よりも女の子らしい、女装した弟だった！

脳内イメージとはあまりにも変わり果てた姿に理解の追いつかない姉。

美少年の弟を待ち焦がれていた姉には女装の弟をすんなり受け入れられない。でも弟は弟、かわいすぎる姿に大はしゃぎ。

カッコイイ男の子どころか、現れたのはどこからどうみても女の子の姿。

信じられない！　けど愛しい弟に変わりはないのだから、やっぱりステキッ！

弟のことなら何でも許しちゃう。お姉ちゃんだけは弟の味方。この思考だけでもう立派なダメ姉認定です。

お姉ちゃんとしては男のリンちゃんが好きだけど、可愛い女の子の姿も好き。しかし、母の言いつけで女装を改めさせるようお姉ちゃんが奮闘を始めます。

世間的には女装が変態に見られることを弟に理解させようと努力するも、次々と失敗。ようやく弟の女装をとがめる人物が現れ、目的達成かと思いきや……

弟が否定された途端、弟の前に立ちはだかり、本気になって怒り出す姉。

身内を、しかも最愛の弟を悪く言われることは絶対に許せない。

彼女の弟にかける真剣な思いが表れる名シーンです。

そもそも、弟くんがお姉ちゃんを慕うようになったのは、幼い頃は女ガキ大将だった姉の頼もしさに惚れたから。泣いた弟の前に颯爽と登場していじめっ子を撃退し、自分のことを守ってくれる姉は、倫太郎にとって白馬の王女様だったのです。

ただ、姉に対する憧れは同一化という形で表れ、「お姉ちゃんと一緒になりたい」→「お姉ちゃんのような女の子の姿になりたい」というわけ。

お姉ちゃんは大好きだが、姉のブラコンほどにシスコンではなくて、お姉ちゃんは空回りしがち……ここが本作の姉萌え的楽しみどころです。

■「みんな変態」じゃありません！

度を超して弟にハァハァしちゃうのも、姉に憧れすぎて女装しちゃうのも、人間として普通です！　…そう思ってしまった私とあなたは変態かも知れませんが。

優しい姉が好き。

凛とした姉が好き。

美人菜姉が好き。

かわいい姉が好き。

ちょっと子どもっぽい姉が好き。

友達以上恋人未満な姉が好き。

お姉さんぶった姉が好き。

つんつんした姉が好き。とにかく好き。

頭から尻尾まで姉の魅力が詰まった

甘くて美味しい単行本です。

■柚木 N'先生の姉新刊

もはや成年コミック界の姉ジャンルを代表する一人となった柚木 N'先生。

ガチガチの姉限定作家ではなく、アンソロジーや同人誌では思い思いの作品（ただし、自然と姉寄りの作風になっているような。）を描かれていますが、やはり主戦場は姉モノ！

お姉ちゃんいっぱいの漫画を描きたい！と、いつも後書きでつぶやかれていて、編集さんは姉モノでゴーサイン→柚木先生趣味全開漫画を描く→当然出来が良い→評価が高い→編集さんは……以下ループの好循環が確立。

姉恋

著者	柚木 N'
発行	TENMA COMICS
発売日	2012 年 4 月 27 日

柚木先生もますます漫画の腕に磨きが掛かって、お姉ちゃんの魅力もマシマシ。

今、脂の乗りまくった先生の姉満載新刊です。

■3人のブラコン姉に囲まれ

今回のメインは、やはりこれでしょう、表題作の「姉恋」。

表紙イラストにも描かれている３人のお姉ちゃんと弟の姉弟愛模様を描いた、全５話構成。１人のお姉ちゃんにつき１話、ハーレム編は何と２話。（さらに巻頭カラーで４ページ。）

面倒見の良い憧れのお姉ちゃん型の長女・真魚（まお）姉。

コスプレイヤーでメイド服が似合うアキバ系の次女・りお姉。

ヤンキー系で一人称が「僕」、血の繋がらない姉・朝海姉。

弟を愛してしまったこの３人に迫られるうらやましい弟・彰正が主人公です。

長女・まお姉は、何でも出来る自慢の姉と弟に褒められて以来、常に模範であろうと努力してきた姉。弟のことが好きなのは、私が彰正を守り育てなければという母性愛か

ら来るものだと思っていたが、どんどん男らしくなっていくのを見て、実は弟の男性的な魅力に惹かれていることに気付く。弟とキスしたい、触れて欲しい、求めて欲しい。でも、そんな欲望をさらけ出すなんて、理想の姉として失格。そんな葛藤が頂点に達した今、ついに想いは決壊して……。この瞬間がたまらん！

家庭的で優しいお姉ちゃんが、内に秘めた情欲を爆発させ、弟と結ばれる姿は非常にそそられます。

次女・りお姉は、元々は無口で、いつも独りでいた女の子。弟のヒーローごっこに付き合わされるようになってから、変身願望が芽生え、コスプレイヤーやイメージDVD出演など、注目を浴びることが好きになる。もちろん、可愛いと言ってもらいたい人ナンバーワンは弟。可愛いと言ってもらったメイド服姿を生で弟に披露すると、熱い視線に射抜かれてお姉ちゃんもうガマンできないっ！　と弟を押し倒し……！

表面的にはちょっとＳっ気を出した責めとセリフ、内面では弟カワイイ！　弟萌えーっ！　と、姉の悦び大爆発。読んでいると、いつの間にかお姉ちゃんの方に感情移入し、弟を持った姉の幸福感に浸ってしまいます。

三女・朝海姉は、かつて桜木家にもらわれてきた姉。

血の繋がらないことをコンプレックスに思い、また数々の事件で人と距離を置くようになり、不良とレッテルを貼られてきた。

もらわれてきた日、優しくされた弟に一目惚れするが、子どもの頃に弟のことが好きだということを人にからかわれ、弟と結婚できないなら女の子になんて生まれなければ良かったと思ってしまうほど、一途に弟を想い続ける、「見た目が恐いほど内面はナイーブ」の法則的な姉。

ナイフみたいにとがっては、触るもの皆傷つけてきたうわべは、ただ弟を困らせ構って欲しかっただけ。

強がり続ける姉の前でも自分のことを好きと言ってくれた弟にキュンとして、女の子で良かった、この子の姉になって良かったと自分を取り戻す朝海姉。

ボーイッシュなヤンキー姉貴がデレた後の純なブラコンお姉ちゃんに変化する落差はもう反則級！

３話いずれもお姉ちゃんが弟を好きになるきっかけがきちんと描かれ、三者三様の姉弟愛の形を見せる柚木先生の力量は見事と言うほかありません。

この上さらにハーレム編が２話ありますからね！　これがまた単なる羽目を外した乱痴気騒ぎではなく、３人のお姉ちゃん達の関係がよく伝わる睦み合いなのです。個別ルートで描ききれなかった４人姉弟の全体像が見えてくる素晴らしい締めくくり。弟が好きという点で一致するお姉ちゃん達によるこの世の天国がここにある！

■安心の姉オンリー単行本

表題作のほかにも、ツンツンお姉ちゃんの心がほどけていくストーリーや、いい年したお義姉さんがセーラー服を着ているところを見つかって的なマニア向けストーリーまで、姉・年上たっぷりの１冊でした。

おおかみこどもの雨と雪

監督	細田　守
製作	スタジオ地図
公開日	2012 年 7 月 21 日

大学生の花は、彼と出会ってすぐに恋に落ちた。やがて彼が人間の姿で暮らす"おおかみおとこ"だと知ることになったが、花の気持ちが変わることはなかった。そして一緒に暮らし始めた２人の間に、新たな命が生まれる。雪の日に生まれた姉は≪雪≫、雨の日に生まれた弟は≪雨≫と名づけられた。

雪は活発で好奇心旺盛。雨はひ弱で臆病。一見ごく普通の家族だが、生まれてきた子供たちは、「人間とおおかみ」のふたつの顔を持つ、≪おおかみこども≫だった。そのことを隠しながら、家族４人は都会の片隅でひっそりと暮らし始める。つつましくも幸せな毎日。しかし永遠に続くと思われた日々は、父である"おおかみおとこ"の死によって突然奪われてしまった―――

取り残された花は、打ちひしがれながらも「2 人をちゃんと育てる」と心に誓う。そして子供たちが将来「人間か、おおかみか」どちらでも選べるように、都会の人の目を離れて、厳しくも豊かな自然に囲まれた田舎町に移り住むことを決意した。

■それはおとぎ話のような世界

人間の母と"おおかみおとこ"の父との間に生まれた２人の姉弟。半分おおかみ、半分人間の幼い子を育てる母の物語。

事前に大まかなあらすじを読んで、たとえばご近所の姉弟を第三者の視点から眺めて楽しめる姉アニメかな、と想像して、公開初日の初回上映に足を運びました。

映画はもう大満足の内容で、ここ数か月仕事の忙しさに心をすり減らしていた自分を取り戻すのに十分すぎるほどでしたが、その姉属性的な楽しみ方は想像とは少々違ったものでした。

■母は強し！

大学生・花が恋をした相手は、"おおかみおとこ"だった。

やがて花と彼との間には、長女の雪・長男の雨が生まれるが、幸せもつかの間、父はあっけなく亡くなってしまう。

二人の幼子を抱えて呆然とする母。とりたてて気が強いわけでもない、ごく普通の女性である彼女が、いつまでも泣いてばかりいられない、しっかりと私が子ども達を育てなければ、と立ち上がるところからがいよいよ本編の幕開けです。

女は弱し、されど母は強し（ヴィクトル・ユーゴー，仏 1802-85）。

細田監督が本作を製作する動機となったのは、人の親となることで輝いて見えるようになった友人知人の姿だったといいます。

作中の母・花も、二人の子どもを育てるため、苦労にも音を上げず強く生きる姿が

印象的。「子育てもの」を意識した監督の意図は、見事に成功しています。

■おおかみこどもの姉と弟

作品中で目立つのは、子育てする母の姿ばかりじゃありません。

雪の日に生まれた雪お姉ちゃん、雨の日に生まれた弟・雨くん。

この二人の姉弟が可愛いんです。

雪お姉ちゃんは元気いっぱいで活発な女の子。

小さい頃から家の中を駆けずり回り、少しの間も時としていられないような子で、とても食いしんぼう。

虫やヘビくらいは何とも思わず、おおかみの本能か、小動物の狩りくらいお手の物。

一つ年下の弟・雨くんは、活発なお姉ちゃんとは対照的に、ひ弱で引っ込み思案な男の子。

姉と違い、家の中でおとなしくしているのが好きなインドア型。

半分おおかみの血を引く割に虫すら苦手で、泣き虫な甘えん坊。

姉弟二人はもちろん仲良し。遊ぶ時や出掛ける時は、飛び回ってはしゃぐお姉ちゃんの後ろを弟が一生懸命追いかけ、何かあると弟は姉の背中に隠れてしまうような、そんな姉弟関係が見て取れます。

中心となる二人の子が、兄と妹ではなく、姉と弟。これは、筆者が姉びいきの点を差し引いても当然の選択だったと思えます。

幼少期から少年期の雨くんは、か弱い存在と映るのですが、彼をぐいぐい引っ張るのは当然お姉ちゃん。弟のピンチを救うのも、いじめっ子から守るのもお姉ちゃん。強い姉の姿は、強い母の姿に通じるものがあって、作品の主題とも共鳴します。

仮にこれが強い兄と弱い妹であったら、母の子育てを描く本作の中では明らかに異質なものとなって、失敗だったはず。

頼もしくて、寄り添うと安心できる存在であるのは、母、そして姉。

母は強し、されど姉も強し、なのです。

■ああ、愛しいわが子達

母と姉弟の13年間を綴った映画。

生まれたばかりの赤ん坊の頃から幼少期、少年少女期と、継ぎ目なく徐々に成長する姿を追います。

第三者の視点で姉弟を眺める作品かと思っていましたが、それは違いました。

ラストでは、私の視点は我が子を見つめる親のそれであることに気付いたのです。

弟に感情移入し姉を見上げるのでもなく、**親として姉弟を慈しむことができる作品**、それが『おおかみこどもの雨と雪』でした。

◆本文中のカットは、コミック版『おおかみこどもの雨と雪』第１巻（漫画：優　角川コミックスエース）から引用しました。映画版にほぼ完全準拠し、雰囲気を損なわない良いコミカライズです。

お読みいただき、ありがとうございます。全姉連です。
第 17 号、いかがだったでしょうか。

プレイはしたものの、レビューを書かなかった姉ゲーや姉コミックもいくつかありました。その多くは「姉弟脱却型」ストーリーだった、との理由から。
世間一般には「姉弟関係から恋人関係へ」という展開こそ姉ゲーの王道だと誤解されやすいのですが、違うんです。何度も何度も主張してきましたが、姉に恋人関係は求めていないのです。お姉ちゃんはお姉ちゃんとして愛したい。姉マニアであればあるほど「姉弟関係＞恋人関係」だし、姉弟愛は男女の恋愛よりも尊いのです。
主人公に姉がいたら、スタート時からもう目的を達してゴールインしているんです。従って、姉ルート＝アフターストーリーなんです。
姉弟関係に恋人関係が付け加わった、とか、お姉ちゃんを女の子としても見るようになった、とかはまだ受け入れられます。なくても問題ないけど。

この論を突き詰めていくと、たとえば恋人関係にある先輩キャラや年上キャラが、
「もう総裁くんのこと、弟としか見られないよ……」
「私たち、今日からは恋人じゃなくて姉弟、だね」
なんてセリフを言ってくれたら拍手喝采なんですが、まだ時代は早すぎるか。
“ヒロインは全員年上！　彼女たちと仲良くなって、姉弟の契りを目指せ！”
これ、まだどこも手を付けていないコンセプトです。
どうっすか、クリエイターの皆さん！

全姉連会報 第１７号

発　行： 全姉連 総本部（http://www.zenaneren.org/）
発行日： 2012 年 8 月 12 日
著　者： 全姉連総裁

連絡先： so-sai@zenaneren.org

表　紙： 田口ケンジ様 （http://blog.livedoor.jp/kenji_t1710/）
印　刷： 株式会社ユリクリエイト様

本書発行に至るまで、全姉連を通じて多くの同志から姉ゲー情報を頂きました。
ここにお礼申し上げます。
本書へのご感想、ご意見、ご質問はお気軽に上記連絡先までお送りください。

全姉連会報17

ZEN-ANE-REN PRESENTS ELDER SISTER ONLY MAGAZINE